

平成29年度「学芸員による展示場ガイド」の実施報告

永原 達哉，山路 はるか*

概要

展示場ボランティアのサイエンスガイドのレポートと学芸員の解説で進める「学芸員の展示場ガイド」の撮影及び編集業務の実施について報告する。

1. はじめに

「学芸員の展示場ガイド」をはじめて3年目になる。大阪市立科学館の展示場には200点以上ある展示物があるので全点を撮影するまではまだままだの道のりであるが、今年度も1か月に2～3点の撮影を行った。

2. 撮影にあたって

2-1. 撮影の基本

いろいろなテレビで見られる、お店の紹介や人の紹介などの番組はまず編集会議が開かれ、内容とキャスティングなどが決められる。展示場ガイドの場合は、サイエンスガイドさんと学芸員のスケジュールを調整し、担当学芸員にどの展示物を撮影するかを相談をするあたりがこれにあたるだろうか。テレビではロケ班が現場に出向き、実際の撮影を行う前にスタッフなどが下見を行い、放送作家などが台本を作成する。当日のロケ班には音声、照明スタッフや、AD などが入り、ディレクターの指示のもと、撮影を進める。まあ、これは予算が潤沢にあるテレビ番組だからできることである。テレビでもローカル番組などの短いコーナーでは、レポーターなどもなく、ナレーションを入れる場合、スタッフがハンディカメラ1台だけをもって撮影を行うことも多い。そう思うと本事業は撮影現場が仕事場である展示場なのでロケハンをする必要はない。撮影編集を行う私と機材準備とレフ版係の山路氏2人で実施することはまだ恵まれているといえよう。

2-2. ほぼぶっつけ本番

当日担当のサイエンスガイドさんにはどの展示物を紹介するか程度のインフォメーションを事前に連絡するだけである。それをどう撮るか、どんなセリフを言うか

は本番前の簡単なリハーサルで決める(まれに学芸員が台本を作ることもある)。展示場が閉まる間際、来館者が少なくなるのを見計らってセッティングを行う。学芸員が到着するまで、導入部分のサイエンスガイドのみのシーンと自己紹介の部分のリハーサルを行う。学芸員が到着してから、どのように紹介するかを確認し、場当たりをしながら明かりや立ち位置、セリフ確認を行う。最後に二人の音声確認を行い、本番の撮影を行う。

2-3. インサート

ふつうテレビのロケでの撮影では、連泊での撮影でない限り、インサートを別日に撮ることなどはしない。本編撮影後、セリフにかぶせる画をインサート用として何パターンも撮影するのである。撮り忘れ、撮影ミスは許されないため、AD やキーパーなどが編集どおりに撮影が終了しているか、番組の尺に必要な画を撮っているかを都度確認している。本事業では撮影場所が仕事場なので、時間の関係や編集中に追加で必要になった場合は後日インサートを撮る場合もある。

3. 編集

撮影後、まずデータ確認を行う。編集上のメインソフトは Adobe 社の Premiere Elements2018 を使っているが、番組内のバナーやマップなどの製作は同社の Illustrator と Photoshop を使っている。

放送中に画面の上部左右角に見られるバナーや下部に見られる名前や演者のセリフを文字化したものを出したりしている。本事業では、セリフ内の重要な単語などを中心にテロップ形式で画面に登場させた。

公開は Youtube 上で行う。データは wmv 形式で保存、担当学芸員の校正後、問題なければ広報からアップされる。

*nagahara@sci-museum.jp

4. 動画紹介

展示解説は担当学芸員、レポートは展示場ボランティアのサイエンスガイドさんである。

どれがはやいなか？(上:英語版、下:日本語版)

担当学芸員:石坂千春、レポート:今谷恵美子



天然繊維(化粧まわし)(上:英語版、下:日本語版)

担当学芸員:岳川有紀子、レポート:徳岡麻子



オーロラ発生装置

担当学芸員:江越 航、レポート:竹田由実



セルロイド

担当学芸員:岳川有紀子、レポート:徳岡麻子



企画展大阪市立科学館資料で見るノーベル賞展

担当学芸員:小野昌弘、レポート:谷坂明代、山中智美



ミュオグラフィ

担当学芸員:大倉 宏、レポート:相坂あゆみ



ワイヤーチェンバー

担当学芸員:大倉 宏、レポート:辻尾真美



星の三次元分布

担当学芸員:飯山青海、レポート:今谷恵美子



回転力発電

担当学芸員:西岡早織、レポート:谷田容一



住友銅吹所

担当学芸員:嘉数次人、レポート:前田武克



金属とその利用

担当学芸員:小野昌弘、レポート:徳岡麻子



象牙

担当学芸員:岳川有紀子、レポート:川崎知可



光学

担当学芸員:嘉数次人、レポート:武中里穂



電力消費量

担当学芸員:嘉数次人、レポート:徳岡麻子



天体望遠鏡

担当学芸員：西野 藍子、レポート：今谷 恵美子



5. 最後に

展示場ガイドの実施で大切な事は、サイエンスガイドさんの存在である。いかに気分をリラックスしてもらい、カメラの前でも自然体にふるまってもらうかがポイントである。そこから学芸員とのほほえましい掛け合いが生まれる。我々はそれを逃さず収録する。編集の余白を残しつつ、撮影は落ち着いて望むように心がけている。